

令和元年度第1回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
資料評価部会（美術部会）

令和元年11月5日（火）
東京都江戸東京博物館 2階会議室

午後3時54分開会

矢中文化施設担当課長代理：それでは、御出席予定の委員の先生が皆さんおそろいですので、まだ定刻には若干時間があるのですけれども、早目に開始させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、部会の開会をさせていただきたいと思っております。

本日は、お忙しい中、御出席いただきまして、ありがとうございました。

ただいまから「令和元年度第1回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会 資料評価部会（美術部会）」を開催いたします。

私は、東京都生活文化局文化振興部で文化施設担当の課長代理をしております矢中と申します。本日の司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

資料収蔵委員会には、収集部会と評価部会がございます。収集部会は、江戸東京博物館の収蔵品としてふさわしいか否かを御審議いただく会、また、評価部会は、江戸東京博物館の収蔵品としての価格を個別の委員の方々に御評価いただく会となっております。

なお、先週に収集部会を開催いたしまして、本日、当部会でお諮りする案件につきましては、収蔵するのが適切であるという御意見を既にいただいているところです。

本日の評価部会につきましては、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい適正な価格評価をよろしくお願いいたします。

まず初めに、東京都江戸東京博物館副館長の小林から御挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

小林副館長：本日は、評価部会にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

今年度第1回の資料収蔵委員会となります。本評価部会では、3点の絵画を御評価いただくことになっております。どれも常設展示や展覧会での活用が可能であり、江戸東京博物館に必要不可欠な資料でございます。

御審議のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

矢中文化施設担当課長代理：本日御出席いただきました委員の皆様をここで御紹介させていただきます。私から向かって左手の席から順に御紹介をさせていただきます。

黒田委員でございます。

田辺委員でございます。

内藤委員でございます。

桑山委員でございます。

日野原委員でございます。

続きまして、事務局職員を御紹介いたします。

東京都江戸東京博物館事業企画課長の飯塚でございます。

それでは、これから議事のほうに入りたいと思いますが、冒頭、それに先立ちまして、当部会の公開についての取り扱いを御説明いたします。

当部会は「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」第12の規定により、原則公開となっております。そのため、委員皆様のお名前と現職名は東京都のホームページ上に公開をしております。

一方、当部会における評価対象資料の価格評価に関する議事は、同要綱第12の第1項(1)の規定により非公開となっております。なお、当部会の議事録につきましては、同要綱第12の第2項規定により、資料収集決定後に議事録の公開を予定しております。公開に当たりましては、事前に委員の皆様にも確認をさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

なお、同要綱第12の第2項(1)により、委員個別の価格評価については非公開の取り扱いとしております。

以上で、公開についての御説明は終了となります。

それでは、飯塚課長から本日御評価いただく資料の説明をお願いいたします。

飯塚事業企画課長：わかりました。

それでは、資料の前に、お手元の資料の確認をお願いいたします。

まず、一番上に会議次第がございます。

次に、A4の委員名簿がございます。

続いて、A4の「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」が2枚ございます。

次に、A4の「令和元年度第1回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）説明資料」が1枚ございます。

続いて、A3の横判で「令和元年度第1回資料収蔵委員会資料（資料評価部会美術部会）」が2枚ございます。

最後に、A3の横判で「令和元年度第1回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）評価票」が1枚ございます。

よろしいでしょうか。

なお、お配りしました名簿の肩書きなどに誤りがございましたら、恐れ入りますが、後ほど事務局へ御連絡いただければと存じます。

また、お手元にお送りしました資料につきましては、現時点では未公開の情報が含まれておりますので、会議終了後回収させていただきたく存じます。

それでは、今回、御評価いただく資料について説明いたします。A4の「令和元年度第1回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）説明資料」をごらんください。

まず、1《吉原仲之町》、奥村政信／画、延享から寛延ごろ（1744年～1751年）の作でございます。

これは、桜の季節の吉原を描いた作品です。室内には、立て膝で小鼓を打つ遊女と客と思われる男性、その前には杯と肴が置かれています。男性は鼓の音に耳を傾けながらも、新造を連れて歩む太夫に目を奪われています。画面上部には「花の塵つもるハ恋の中之町」、右側の短冊には「華のゑん恋の主や中之町」と記されています。

左下にフランスの日本美術収集家アンリ・ヴェヴェールの所蔵印があり、昭和50年（1975年）開催の「ベペール・コレクション浮世絵名作300選展」の図録に掲載されていることから、同展で出陳されたものと考えられます。この図録では制作年代を宝暦ごろ（1751年～1764年）としていますが、武藤純子氏の「奥村政信の役者絵―作画時期と制作状況を中心に―」（『浮世絵藝術NO. 133』1999年10月刊）の論考によると、落款が「正名芳月堂奥村文角政信筆」であることから、延享から寛延ごろの制作と推察されます。

本資料は、墨摺絵に緑色や黄色などを加えた紅摺絵です。当館での紅摺絵の所蔵は、鳥居清広や石川豊信などの作品わずか9点であり、政信の紅摺絵は未所蔵のため、本作品収集の意義は大きいと言えます。また、宝暦ごろの吉原仲の町の様相を知る資料としても貴重です。常設展示「江戸の美」「芝居と遊里」コーナーのほか、さまざまな展示での活用が見込まれます。

続きまして、2《竹沢藤次 曲独楽》、歌川国芳／画、弘化元年（1844年）の作でございます。

曲独楽とは、美しい色の独楽を使い、さまざまな曲芸を見せる演芸で、比較的渋い芸ですが、竹沢藤次はこれを大仕掛けで派手なショーにした曲独楽の芸人です。

弘化元年（1844年）2月、両国橋西詰広小路に大きな小屋を構え、曲独楽に手品とぜんまい仕掛けのからくりを交え、大評判をとりました。本図は、そのうちの演目「お岩稲荷怪談廻り」を描いた作品です。右下、羽子板の上で独楽を回すのが藤次で、提灯抜けや井戸から出た人魂の火の上でも独楽が回っています。藤次は紺の着物に枯れ草模様の袴、左上のお岩稲荷前に立つ芸人は、朱色模様の着物に紺と朱色柵模様の袴をつけています。背景に溶け込むような両人の衣装は舞台の仕掛けに関係があったと思われます。

絵師の歌川国芳は、平板な浮世絵の中に女性の顔だけは陰影法を使い大きく描き、その不気味さや凄惨さを強調している点が注目されます。

竹沢藤次は江戸後期の代表的な曲独楽芸人で、その錦絵も多数版行されていますが、当館での所蔵は1種のみです。国芳の秀作として、また、見世物興行をあらゆる資料として常設展示「四季と盛り場」「江戸の美」コーナーでの展示とともに、さまざまな展示での活用の可能性が見込まれます。

最後に、3《横浜交易西洋人荷物運送之図》、五雲亭貞秀／画、文久元年（1861年）4月の作です。

これは、横浜浮世絵（横浜絵）の創始者とされる貞秀（1807～1878ごろ）による5枚続きの錦絵です。貞秀は美人画、武者画、風景画などで優品を残したほか、緻密な鳥瞰式の一覧図を得意とし、安政末期から文久年間にかけて横浜絵や開花絵を多く描きました。慶応3年（1867年）のパリ万国博覧会では、歌川芳宗とともに浮世絵師の総代を務めたことで知られます。

安政5年（1858年）の日米修好通商条約締結で神奈川の開港が決定すると、幕府は東海道に直結する神奈川宿ではなく、対岸の漁村である横浜を開港することとしました。これ

により、横浜は急速に整備され、多くの人材・物資・資材が集まりました。

本資料は、外国船でにぎわう横浜港を描いた作品です。海上には安政の五カ国条約を締結したアメリカ、イギリス、フランス、オランダ、ロシアの国旗がはためき、各国の貿易船が停泊しています。船と船の間を縫うように進む小舟や船上で動く荷物や人々が活気あふれる当時の横浜を示しています。

また、5枚続きのうち、左から中央の3枚を使って大きく船舶を描いており、その大胆な構図から迫力が伝わってくるほか、帆や国旗の一部を空摺で質感を表現している点が注目されます。加えて、各国の人物や風俗を描き分けており、当時の海外観が示されています。

本作は、貿易船や外国人の姿を通して、安政の五カ国条約締結後の海外交流を描いた絵画資料としてすぐれています。常設展示「江戸から東京へ」コーナーなどでの活用が見込まれます。

説明は以上でございます。

矢中文化施設担当課長代理：説明は以上となりますが、何か御質問、御意見などはございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、続きまして、評価方法について御説明をさせていただきます。

お手元の評価票のほうに金額を記載し、署名していただきます。評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの価格の平均値を委員会としての評価額といたします。

評価方法につきましても、御質問、御意見などはございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、資料の実見に移りたいと思います。御移動をお願いいたします。資料に関する個別の御質問につきましては、会場におります学芸員にお尋ねください。よろしく願いいたします。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

矢中文化施設担当課長代理：それでは、議事を再開させていただきます。

資料をごらんいただきまして、何かこの場で御意見、御質問などはございますでしょうか。よろしいでしょうか。

質問等がございませんようでしたら、お手元の評価票に価格評価の金額と御署名をお願いいたします。金額は消費税込みでの御記入をお願いいたします。消費税は10%となっておりますので御注意をお願いいたします。よろしく願いいたします。ペンで記入いただくようお願いいたします。

(評価票記入)

矢中文化施設担当課長代理：記入がお済みになりましたら、係のものが確認いたしますのでお声がけいただければと思います。確認が終わりましたら御退席いただいて結構です。

本日はありがとうございました。

午後 4 時25分閉会

以上